開化期の教科書

平成26年4月10日～5月30日

三重大学附属図書館

ごあいさつ

三重大学は、三重師範学校、三重青年師範学校、三重農林専門学校を母体として、昭和24年に新制大学として発足しました。その三重大学の附属図書館には、現在和書が1000点ほどあります。多くは前身の師範学校と農林専門学校から引き継がれたものです。師範学校は戦前では唯一の教員養成機関であり、教育関係の書籍を有していました。現在はさまざまな学部から教員免許を取得することができますが、教育学部は新制三重大学の発足時から続き（当初は学芸学部)、多くの教員を輩出して地域に貢献してきました。

今回の企画展示では、三重大学附属図書館所蔵の和書のうち、明治期の小学校教科書をご紹介いたします。6・3・3・4の学校制度は70年近く続いており、ゆるぎのないものに感じるかもしれませんが、戦前は修業年数などが現在と異なり、とくに明治期にはめまぐるしく教育制度が変更されていました。本展示では小学校教科書を扱いますが、ここでの「小学校」は現在の小学1年生から中学2年生が行く学校でした。

第2次安倍政権は教育の抜本的な改革を目指しています。道徳教育の導入や小学校の英語教育の強化のほか、6・3・3・4の学校制度の見直しが提案されています。今回の展示が将来を考える手がかりになるのではないかと思います。また、そうではなくても、教科書をご覧いただき、100年以上前の小学生たちが何を勉強したのかに思いを馳せていただければ幸甚です。

平成26年4月　三重大学附属図書館長　吉岡 基

小学校の沿革

日本の近代学校制度は明治５年（1872）の「学制」より始まる。これにより、身分の隔てなく、全国民が共通の基礎課程を学ぶ小学校が全国に設立された。学齢は満６歳から 14 歳までとされた。当初の小学校は下等小学（４年）上等小学（４年）よりなる。明治６年で 28％、明治 10 年で 40％の就学率であった。明治 12 年の教育令と 13 年の改正教育令を経て、明治 14 年より、小学校は初等科（３年）・中等科（３年）・高等科（２年）の編成となった。明治 19 年の小学校令により、小学校は義務教育となり、尋常小学校（４年）と高等小学校（４年）の編成となる。明治 23 年より、尋常小学校は３（乙種）または４年（甲種）、高等小学校は２・３年（乙種）または４年（甲種）となった。明治 33 年より、尋常小学校の４年が義務教育とされた。その後明治 40 年より、尋常小学校６年（義務教育）と高等小学校２年の構成となる。昭和 16 年（1941）に国民学校と名称が変わる。昭和 22 年の学校教育法の公布よりふたたび小学校の名称に戻り、義務教育が中学校までとなり現在に至る。

小学校の沿革図

暦（西暦）	明治５年（1872）	明治14年（1881）	明治19年（1886）		明治23年（1890）				明治33年（1900）		明治40年（1907）		昭和16年（1941）		昭和22年（1947）	
学校制度 / 入学時（修了時）の年齢	学制	小学校教則綱領	小学校令		小学校令（第2次）尋常小学校（３・４年）と高等小学校（２・３・４年）				小学校令（第3次）		小学校令一部改正		国民学校令（高等科の義務教育が決まるが実施されず）		学制改革（現在に至る）	
６歳（７歳）	下等小学（８等級）	小学校初等科	尋常小学校	１年	尋常小学校	１年		１年	尋常小学校	１年	尋常小学校	１年	国民学校初等科	１年	小学校	１年
７歳（８歳）				２年		２年		２年		２年		２年		２年		２年
８歳（９歳）				３年		３年		３年		３年		３年		３年		３年
９歳（10歳）		小学校中等科		４年				４年		４年		４年		４年		４年
10歳（11歳）	上等小学（８等級）		高等小学校	１年	高等小学校	１年	１年	１年	高等小学校	１年		５年		５年		５年
11歳（12歳）				２年		２年	２年	２年		２年		６年		６年		６年
12歳（13歳）		小学校高等科		３年			３年	３年		３年	高等小学校	1年	国民学校高等科	1年	中学校	1年
13歳（14歳）				４年				４年		４年		2年		2年		2年

色付け部分は義務教育

教科書の沿革

明治初年に自由発行・自由採択制になり、その後報告・認定制になり、明治 19 年に検定制が始まった。明治 23 年 10 月 30 日に教育勅語が発せられ、以後教科書も影響をうける。明治 23 年の小学校令により、教科や内容の改変が大きくあった。明治 35 年の教科書疑獄事件（汚職事件）をきっかけに、明治 37 年に国定教科書制度が実施され、昭和 22 年 3 月まで続く。昭和 44 年以降、小中学校のすべての教科書は無償給与されているが、それ以前は有料で巻末に値段が記してあった。

師 範 学 校

明治 5 年から設立された教育養成機関。明治 19 年に高等、尋常の二種となり、明治 30 年から女子高等師範が独立し、同時に中等学校教員養成校を高等師範学校とし、小学校教員養成の尋常師範学校が師範学校とのみ呼ばれるようになった。戦前は小学校の教師育成は師範学校でのみ可能だった。無月謝・給費制のため貧しい家庭からでも通いやすく、また全寮制が特徴であった。明治 8 年設立の師範有造学校が三重大学の前身のひとつである。

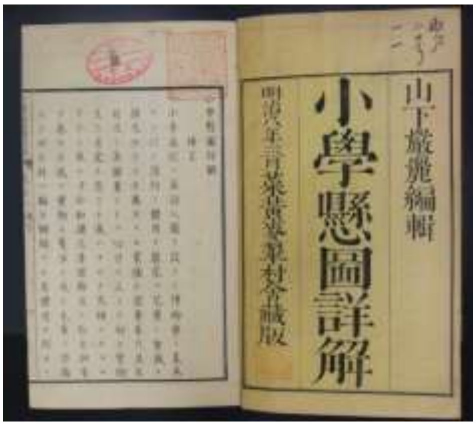
1. 小学教育新篇 376.2.N84.1-4

木版、横 14.7×縦 22.2 糎、4 巻 4 冊、西村貞訳述、中根淑校閲、原亮三郎（金港堂）発行、明治 14 年（1879）12 月刊。題簽角書「西村貞訳述」。「学校教育」（巻 1・2）、「学校管理法」（巻 3・4）。「三重県師範学校」蔵印。師範学校（教員養成機関）で用いられた教育学の教科書。スコットランド、グラスゴー、フリー・チャルチ師範学校の教科書を翻訳したもの。

懸　図（掛　図）

学校での指導のために、地図、絵図、標本などを掛け物のように仕立てたもの。日本の伝統教育には存在せず、開化とともに移入されたものである。「数字図」「九九図」「単語図」「連語図」「五十音図」などがあった。明治初期の教育では教科書と同等のものとして重視されたが、内容が難しすぎる嫌いがあった。

2.　小学懸図詳解　375.27.Y44.1-2



木版、横 15.0×縦 22.6 糎、2 巻 2 冊、山下厳麗編、青山清吉版、明治 8 年（1875）5 月序。小学校で用いられる掛図では名前のみ覚えて、実物の考究に至らないので、『和漢三才図会』や『和名抄』あるいは実物から解説を作ったとする。内容は問答式になっている。

修　身

道徳の授業である修身は明治 13 年の教育改正令公布から昭和 22 年まですべて学科の筆頭に置かれ、教育の根本とみなされた科目だった。明治 13 年以前は西洋の書物を翻訳した教科書もあったが、明治 13 年以降は和漢さらには日本人の故事・格言によって徳性を育成する方針へ転換された。

3.　高等 小学修身書：生徒用　375.93.Ko94

横 14.5×縦 22.0 糎、4 巻 8 冊（うち 5 冊存、巻 1 上、巻 1 下、巻 2 下、巻 4 上、巻 4 下）、井上頼圀編纂、阪上平七発行、明治 26 年（1891）12 月 31 日刊。扉に「明治二十七年一月十六日文部省検定済小学校教科用書」。当時の高等小学校（現在の小 5～中 2）を対象にした学校道徳用教科書。「誠実」「独立」「勉学」といった徳目を一冊につき二十項目収める。単級学級・複式学級に対応するため、どの学年でも同じ徳目をまず掲げ、それにちなんだ話を収めることになっている。井上頼圀（1839～1914）は平田篤胤門下の国学者で、国学院・学習院大学の教授を務めた。

国　語

当初は国語という科目はなく、綴字・習字・単語・会話・読本などの科目であった。小学読本とは、英語のリーダーにあたる教科書である。明治 6 年に東京師範学校が編集したのが小学読本の最初で、明治 20 年ごろまでに全国で用いられるようになった。明治 23 年の小学校令の改正から、明治 25 年ごろに新しい教科書が多数発行され、文部省発行教科書より民間教科書が優勢になる。明治 33 年より従来の読書・作文・習字が合わさって国語科に統一された。

4.　小学読本　：巻四　375.98.Sh95.4

木版、横 14.7×縦 21.3 糎、1 冊、田中義廉編、那珂通高・榊原芳野校正、加藤長平翻刻発行。刊年不明。明治 7 年師範学校編文部省刊『小学読本』を伊勢山田の加藤長平が翻刻したもの。田中義廉は洋学者で、アメリカのウィルソン読本を模倣した。各巻ごとに様々な読み物教材が集められ、本書巻 4 は啓蒙色の濃い理科的教材が記される。

5.　小学読本　A375.8.Sh95

木版、横 15.1×縦 22.2 糎、1 冊、那珂通高・稲垣千頴（ちかい）撰、北爪有卿画、石丸弘人翻刻発行、明治 18 年（1885）3 月刊、明治 7 年文部省刊『小学読本』を翻刻したもの。荒井瑞雄旧蔵。那珂通高は漢学者、稲垣千頴は国学者であり、田中義廉編『小学読本』に比べて、和漢洋の教訓的物語を集めたところが特徴。

6.　高等読本　375.98.Ko94

活版、横 14.3×縦 22.4 糎、8 巻 8 冊（5･6 巻欠）、山県悌三郎編、文学社発行、明治 26 年 12 月 15 日刊、明治 26 年 2 月版と 6 月版の訂正再版。高等小学校（現在の小 5～中 2 相当）読書科の教科書。1 学年で 2 巻ずつ進む。第 1 巻は勅語で始まる。教訓的な色彩が強く、道徳教育とも関係していた。

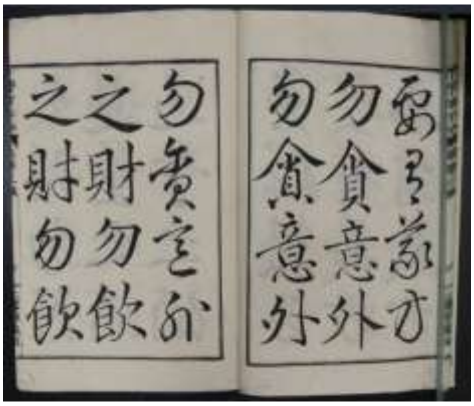
7.　小学国語読本 375.98.Sh95.18

活版、横 14.8×縦 22.5 粍。8 巻 8 冊、学海指針社編、集英堂発行、明治 33 年（1900）12 月 26 日刊。明治 33 年 9 月版の訂正再版。文部省検定済。尋常小学校児童（現在の小 1～小 4 相当）用の国語教科書。三重県河芸郡天名村尋常小学校旧蔵。明治 33 年の改正により漢字数が 1200 字に減らされ、かな字体も一定化し、かなづかいは表音的となった。本書もそれ以前と比べて平易で総合的な内容である。

習　字

習字は明治 5 年の学制から正課。江戸時代の御家流（おいえ）にかわって唐様（からよう）が公文書に用いられ、教科書では唐様のうち巻菱湖風が特に手本に用いられた。明治 37 年の国定教科書化により国定手本が絶対化され、また楷書体が習字の中心となっていく。

8.　小学習字帖：高等三級 375.9.Sh95



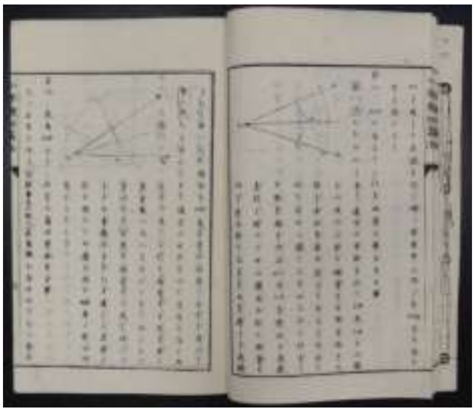
木版、横 15.7×縦 23.3 粍、1 冊、三重県学務課編纂、伊藤信平書、小林鉀三郎発行、明治 16 年（1881）5 月刊。高等科三級（現在の中 1 後期ほど）を対象とした習字教科書。右より草書・楷書・行書の三体で書き分けてある。明治 12～19 年では高等科は毎週二時間かけて、三体を学ぶことになっていた。伊藤信平は桂洲の号を持つ漢学者・書家。

算　数（幾　何）

明治初期の算数教科書は筆算が中心だったが、珠算や暗算、幾何の教科書も存在した。幾何は明治5年の学制では上等小学第5級（現在の中1相当）以上で教えられるものだったが、初歩の段階として図形の種類や名称などは下等小学の掛図などで教えられていた。その後も、明治13年の改正では小学高等科（現在の中 1・2）で習うなど、幾何は基本的に高度な教育の扱いだった。

9.　小学幾何画法　375.4.Sh95.1-2

木版、横14.5×縦22.1糎、2巻2冊、山田昌邦訳、赤松則良閲、修静館蔵版、明治11年（1878）6月20日版権免許。アメリカ、ボストン、「ゼラメトリカール、ドローウィング」という小学校教科書の訳本。「円内に等辺七角形を容るる事」「楕円の中心と其長径及短径を求むる事」など当時の上等小学生（現在の小5〜中2相当）には難しい内容だったと思われる。



理　科

明治5年の学制から正課であったが、時間数や内容など試行錯誤されてきた学科である。当初の知識注入主義から明治10年代後半には観察・実験主義に教科書も授業内容も変わる。明治23年の小学校令では理科は高等小学校のみの科目とされ、尋常小学校では実施されていない。

10.　小学理科新書：甲種　375.94.Sh95

活版、横15.1×縦22.8糎、4巻4冊（巻3欠）、学海指針社編、集英堂発行、明治26年（1893）10月3日刊。明治24年版の訂正再版。文部省検定済。水谷喜彦旧蔵。高等小学校甲種（甲種が4年制、乙種が2年制。甲種は現在の小5〜中2相当）児童用の理科教科書。当時広く用いられた。巻1・2が動・植・鉱物、巻3・4が物理・化学・生理。

歴　史

明治 5 年の学制では、地理は下等小学に含まれるが、歴史は上等小学のみの科目とされていた。当初は世界史も含んだが、明治 14 年より日本史・郷土史のみ教えることになった。明治 23 年の小学校令から、高等小学校だけではなく、尋常小学校 4 年から歴史を教えることが可能になった。

11. 小学校用　日本歴史　前編 375.932.Sh95

活版、横 15.0×縦 22.8 糎。4 巻 4 冊（巻 4 欠)、金港堂書籍株式会社編集所編、金港堂発行、明治 27 年（1894）年 1 月 3 日刊。明治 26 年 9 月版の訂正再版。高等小学校 1・2 学年（現在の小 5・6）用の歴史教科書。文部省検定済。水谷喜彦旧蔵。児童の興味をひくため、神武天皇から西郷隆盛まで伝記による歴史紹介となっている。後編は時代区分とその変遷を記す。

地　理

明治 5 年の学制で下等小学の独立科目とされた。地理の授業では地図と地球儀の利用が重視されていた。明治 13 年の改正教育令では地理は必置の教科とされなかったが、教えることが必然とみなされていた。明治 24 年の改正から、尋常小学校で日本地理、高等小学校で世界地理を教えることになった。明治 33 年の改正で尋常小学校では地理を教えず、高等小学校から教えることになった。

12. 万国地理初歩 375.93.B18

活版、横 15.0×縦 22.6 糎、2 巻 2 冊、学海指針社編、集英堂発行、明治 27 年（1894）1 月 10 日刊。明治 26 年 7 月版の訂正再版。高等小学校（現在の小 5〜中 2）用の地理教科書。文部省検定済。日本地理の次に世界地理を学んだ。地図は彩色され、挿絵も豊富で児童の興味を引くようになっている。

音　楽

唱歌（音楽）の授業の実施は明治 14 年から。唱歌は指導者もおらず、設備も不十分だったため、加設科目（実施しなくてもよい科目）の状態が続き、必修となったのは明治 40 年であった。教科書は明治 14 年に『小学唱歌集初編』が刊行されたが、当初は不足し、明治 25 年頃よりようやく充実していく。

13. 音楽之枝折 375.76.O64.1-2

木版、横 14.5×縦 22.3 糎、2 巻 2 冊、大村芳樹著、普及舎版、明治 20 年（1887）6 月刊。大村芳樹が高等師範学校附属小学校での教案をもとに唱歌科での唱歌教授法を記したもの。上巻は音楽理論が中心。下巻は「遊戯唱歌」「口授唱歌」「単音唱歌」「複音唱歌」の教授法を記す。三重県師範学校旧蔵。

体　育

体操（体育）は明治 6 年より加設科目として導入され、明治 19 年に正課となった。教師用体操手引書もこの時期に集中して出版された。「隊列運動」とは明治 19 年 5 月に小学校高学年男子の科目に加えられた「歩兵操練」のこと。

14. 小学隊列運動法 375.49.I28

木版、横 18.7×縦 12.7 糎、1 冊、飯塚勘蔵編、戸枝百十彦校閲、集英堂蔵版、明治 19 年（1886）7 月刊。三重県師範学校旧蔵。高等小学校における隊列運動の指導書。陸軍軍隊の運動法と教練をもとにした号令中心の内容である。

参考文献

唐澤富太郎『教科書の歴史』（創文社、昭和 31。書庫、375.9.Ka62）

海後宗臣・仲新編『日本教科書大系　近代編』（全 27 巻、講談社、昭和 36～44。書庫、375.9.N77 1～27）

海後宗臣監修『図説　教科書のあゆみ』（日本私学教育研究所事業委員会、昭和 46。開架、375.9.Z8）

唐澤富太郎『日本の近代化と教育』（第一法規出版、昭和 51。開架、370.8.Ky4 2）

仲新『近代教科書の成立』（日本図書センター、昭和 56。大日本雄弁会講談社、昭和 24 年の復刻。書庫、375.9.N31）

梶山雅史『近代日本教科書史研究』（ミネルヴァ書房、昭和 63。書庫、375.9.Ka23）

中村紀久二『教科書の社会史』（岩波新書、平成 4。開架、PB375.9.N37）

江藤恭二・篠田弘・鈴木正幸編『子どもの教育の歴史』（名古屋大学出版会、平成 4。開架、372.Ko21）

文部省編『学制百二十年史』（ぎょうせい、平成 4。開架、373.G16）

滋賀大学附属図書館編『近代日本の教科書のあゆみ』（サンライズ出版、平成 18。書庫、375.9/Ki42）

今野真二『日本語の近代』（ちくま新書、平成 26）

後　記

本展示の選定および解説・解題執筆は、本図書館研究開発室協力大学教員の人文学部・吉丸雄哉准教授が行いました。展示品はすべて附属図書館の所蔵本です。

表紙イラスト：山田 瑞木（三重大学学術情報部）

開化期の教科書　展示資料目録
発行　三重大学附属図書館
平成 26 年 4 月 10 日

この目録はインターネットからもご覧になれます。
URL http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/research/exhibit/kk.pdf